

「大坂の史跡を訪ねて」連載30回目

大正区、此花区、港区周辺

オサタニ ヨシハル
長谷 吉治

1

海援隊士 白峰駿馬ゆかりの地 白峰造船所跡

大阪市大正区三軒家東2丁目14

▶ 白峰駿馬は弘化4年(1847)5月5日、越後長岡藩士 鶴殿瀬左衛門の三男として長岡城下で生まれました。文久2年(1862)、江戸に出て軍艦操練所に入門。元治元年(1864)、神戸にて勝海舟の海軍塾に入門し、坂本龍馬と共に海軍の修行を行っています。その後、坂本龍馬と共に行動し、亀山社中、海援隊にて活躍します。明治維新後、同じく海援隊の同士である菅野覚兵衛と共にアメリカに留学し、帰国後、少しの間は新政府に仕えますが、すぐに官を辞し、実業家として活躍します。明治11年(1878)6月1日、神奈川驛州崎町(現在の神奈川県横浜市神奈川区栄町)に白峰造船所を設立し開業します。業績は順調でしたが、やがて閉所となってしまいます。明治28年(1895)6月、大阪市西区今木町(現在の大阪市大正区三軒家東2丁目)に白峰造船所を再度、設立し開業します。その場所は、JRもしくは地下鉄大正駅で下車し、南東方面へ約10分歩いたところ。木津川沿いに跡地があり、当時の面影はなく石碑や案内板もありません。



白峰駿馬

現在の白峰造船所跡



朝日神明社（逆櫓社）

大阪市此花区春日出中1丁目6

▶ 朝日神明社は、天慶年間、平 貞盛により創建されました。平 貞盛の父である平 国香が平 将門に殺害され、関東地方では承平・天慶の乱が起こります。平 将門は新皇と称して関八州を支配します。貞盛は将門追討の命を受け、将門に勝利しました。そのときの功として、朱雀天皇より朝日宮という神號を賜ったそうです。

平安末期、源平合戦が始まった頃、源 義経が朝日神明社に戦勝祈願を行っています。その後、屋島の合戦の前、梶原景時と舟に逆櫓をつけるかつかないかで、義経と大論争を行います。朝日神明社に戦勝祈願をしているので逆櫓をつけなくても必勝疑いなしとして押し切りました。実際、奇襲により屋島の合戦も勝利し、朝日神明社は別称「逆櫓社」とも呼ばれるようになりました。

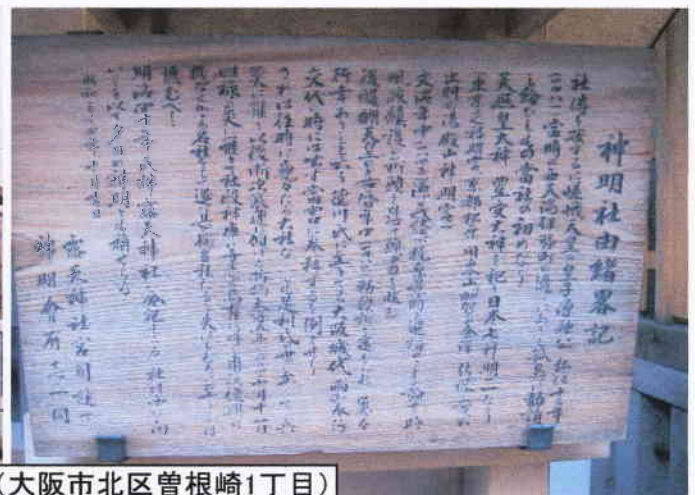
元和元年(1615)、大坂夏の陣前に真田幸村が金色の采配を奉納し、戦勝祈願を行っています。

なお、現在の朝日神明社は移転してきたもので、朝日神明社(現在の大阪市中央区神崎町)、日中神明社(現在の大阪市内平野町)と夕日神明社(現 大阪市北区曾根崎1丁目)の三大神明社と皇大神社(現 大阪市西区川岸町)が明治40年(1907)合祀され、昭和6年(1931)に現在の場所に移されました。



現在の朝日神明社

源 義経が戦勝祈願したと思われる神明社は、曾根崎にある夕日神明社(大阪市北区曾根崎1丁目)と推察されます。その夕日神明社の跡地には、上記で紹介した内容が説明板に記載されています。



夕日神明社の跡地(大阪市北区曾根崎1丁目)